

協働について考える！

1班	<ul style="list-style-type: none"> ・民間に頼りすぎている ・行政が何でもやりすぎもっと市民活力を活用すべき ・行政主導からのいきなりの方針転換（大牟田・マスキーガン友好協会） ・行政の役割、市民の役割をしっかりと把握すること ・市民、行政が協働することで相乗効果を得ること ・公共施設の運営（動物園、学校給食）に指定管理者や業務委託を導入すること良いことである ・夏まつりは町の人たちのやる気を喚起している ・もっと前向きに市民意見を生かした取り組みがあってもいい
2班	<ul style="list-style-type: none"> ・何のために行動するか目的・意識を持った市民がいるか？ ・行政がやるべきことを市民にさせているのではないか（反発・負担減） ・行政は補助金だけで民間に任せきり。民間主導（堂面川清掃） ・各々の長所を生かして補完することに成果を出す ・行政は地域の催しに先進事例等を紹介し寄り添って成功させる ・現状は行政主導の協働。行政は協働のメニューを提示し地域はそれを選択する方法 ・行政が市民にやってもらいたことは市民の方が詳しい ・行政は全体のバランスに市民は地域限定にウェイトがある ・何を市民がすべきか線引きが難しい ・参加できる人が限られている
3班	<ul style="list-style-type: none"> ・時間と目的を共有すること ・楽しく力を合わせて自己実現すること ・非営利活動の間接的なメリットの視覚化 ・価値観を共有できるツール？ ・誰が主体性を持つかということ（比率） ・誰に自分の能力を伝える？（自分に何が出来る？） ・やりたい人がやる ・同じ目的を持ってやる一緒に問題解決すること ・ボランティア活動 ・融合 ・Win-Winな関係 ・気軽さ ・リーダー ・仲間づくり
4班	<ul style="list-style-type: none"> ・協働の意義、本質、ステップが理解されていない ・自治体が創りだされた歴史を知らない ・定義に心がない ・道守り活動、公園愛護協会との連携で一部の橋、公園を清掃 ・協働が本当に協働になっているのかわからない ・公園の清掃等の町内公民館への補助金を増やす ・夏まつり後の個々の決算を公表する ・実行委員会での働き ・まちづくり協議会の活動
5班	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のできる範囲で協働（参加）する ・大牟田市の場合、民間主導では市側（担当者レベル）と対等に協働しながら進めて行くことは困難。 ・行政に意識改革を！ ・知らないことが多い。 ・「協働」に関し市民に任せることが多いような気がする ・協働について今の段階では何もわからない。協働、参画もなく知らない ・「協働」ということで市民の参加を要請するが、市の要請を受ける団体に「補助金？」が出ることで、その分配方法に「協働」がある意味強制される面があるのでは？

大牟田市まちづくり基本条例 市民検討会ニュース



まちづくりの制度について考える 第3回市民検討会開催！！



平成26年3月28日（金）に市役所において第3回まちづくり基本条例市民検討会を開催しました。はじめに市民及び行政の役割について前回の振り返りを行い、市民と行政に関する問題・課題を分析し、その解決策をまちづくり基本条例の内容として盛り込んでいくことについてファシリテーターの辻さんから説明がありました。

ワークショップでは条例の制度と深く関係してくる情報共有や市民参加、協働に関して参加者の認識を深めるため、その問題、課題及び原因について意見交換を行いました。

今回から本検討会の会長の伊佐 淳先生にもご参加いただき、最後のまとめとして、情報の送り手と受け手には認識のギャップがあること、また、情報を受け取る側の姿勢や環境によって情報共有がうまくいかなくなるなどについて身近な例を示しながら講評をいただきました。

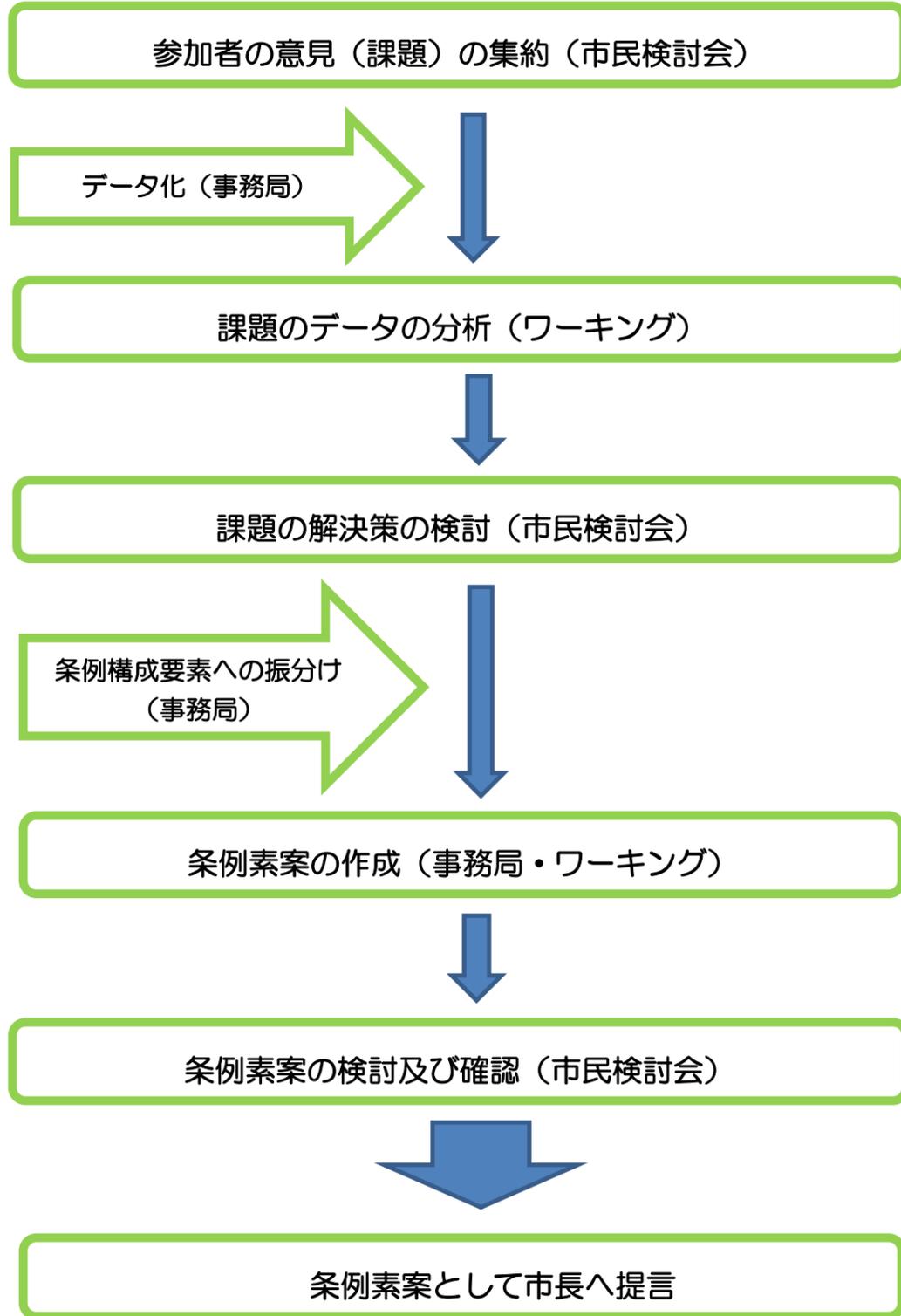
プログラム



1. 開会
2. 班分け
3. 前回の振り返り
4. ワークショップ
「まちづくりの制度」
5. 市民検討会4予告
6. 閉会

条例の策定手順

大牟田市独自の条例をつくり上げていくためには市民の皆さんの意見を条例の内容に反映させることが欠かせません。ワークショップで出された様々な意見（課題）を分析することによって解決策を導き出し、その解決策を条例の構成要素の内容として整理して条例素案をつくりあげていきます。



3班	<ul style="list-style-type: none"> ・市民検討会 ・Tomo Tomo Cafeワークショップ ・アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が拡散している ・企業（NPO）の参加が多かった ・動機付け、関心がない ・参加の窓口が狭い ・体力と気力の無駄 ・忙しいので参加しようと思わない ・アンケート以外はなかなか参加しにくい ・大事なことは審議会の後にアンケートしてはどうか ・アンケートの設問が多い、回答が限られている 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由度が低い ・大牟田市の諦め感 ・現状に満足している ・利益が見えにくい ・未来・将来を感じられない ・思い、思いやりが見えない ・おもしろくない ・答えが決まっている気がする ・ゴールが自分にどれだけの影響を及ぼすかわからない ・参加制度があることを知らない ・誰かがしてくれればいい（関心がない） ・意見が通らない ・目的が伝えにくい
4班	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート ・ワークショップ ・審議会 ・パブリックコメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードだけ拾って真意が伝わらない ・委員長にファシリテーションの力量が不足している ・意見や声を聞かれても見解が述べられるだけで具体的な内容として反映されない ・学習、情報不足の個人の意見で事実と違う ・立法機関、市議会との二重性、市議会の存在がなくなる ・良い意見であってもなかなか政策として反映されない ・アンケート内容が分かりにくい ・審議会の会議内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・有意義でないから ・楽しくないから ・雰囲気によければ参加しても良いが、あえて参加しようと思わない ・参加する趣旨が不明瞭 ・参加制度が分かりにくい
5班	<ul style="list-style-type: none"> ・三川坑跡及び周辺施設を考えるみんなの会議 ・ワークショップ ・アンケート ・審議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料が多くて難しい ・ワークショップ等では限られた時間で答えを出す必要がある ・言葉足らずで意見が活かされないことがある ・ワークショップ（ある程度出来上がったものを基に作るのか？） ・今やっているワークショップ（元から作るのは非合理、困難。参考事例等を基に作るわけには行かないのか） 	<ul style="list-style-type: none"> ・難しそうイメージ ・時間がない ・募集期間が短い ・どこまでのレベルで意見が可能か不明 ・「市民意見を聞いた」という事実作りに参加するだけにならないか ・興味が持てない ・時間が合わない ・ワークショップの情報が行政から市民に届いていない（参加できるようにしてもらいたい）市民参加といっても主催者が始めから決めていることがあって市民参加で意見を言っても何も取り上げてもらえない

情報共有について考える！

市民と行政との協働によるまちづくりを実現するためには、市民と行政とが情報を共有化していくことが前提となります。そこで、情報を共有するための課題とその原因について考えてみました！

情報共有について出された意見

	情報とは	なくて困った、伝わらなくて困った情報	情報共有がうまくいかない理由
1班	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの情報 ・市民と取り組んで行う行事の情報 ・生活（環境・福祉・税）に関する情報 ・健康に関する市からのお知らせ情報（検診 etc） ・ボランティア活動の案内情報 ・講演会の案内情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加したい行事があっても日程がわからない ・（広報以外）各世帯ごとに伝える手段がない ・自然災害による交通情報（速やかに知る手段） ・道路通行止めの情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌だけによる案内 ・情報伝達の方法 ・広報の魅力アップ ・ニーズとのマッチング ・情報は発信の方法に工夫が必要 ・関心がない ・広報に市民が目を通すためのアイデア ・市民にアピール度の高い発信方法の工夫
2班	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の事業や制度等を市民に伝える情報 ・市民に参加してもらう情報 ・行政サービス・制度の日程・内容、手続き等の情報 ・財政報告の情報 ・市役所窓口のチラシ等の情報 ・ホームページ情報 ・広報おむたの情報 ・催事のお知らせ情報 ・ルール変更、法改正等の情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋窓業務実施に関する情報 ・イベント欠席者への記念品配布情報 ・（工事等）交通情報 ・公共施設の休館情報 ・隣近所の情報 ・法律等専門性の高い情報 ・行政サービスの窓口情報 ・役に立つ情報が少ない ・イベント情報 ・市民で解決すべき問題に関する情報 ・行政サービスの重要性についての情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・手段が限られているのでそれを見ない人には情報がほとんどはらない ・情報ニーズの把握不足 ・メディア（紙、ホームページ）の限界 ・共通の概念、用語、生活感覚の不足 ・近隣での対話がない ・専門性が高すぎる（工夫が必要） ・市民が読みたくなる情報の工夫不足 ・行政の市民ニーズの把握が不足している ・情報が多すぎる（優先順位をつける必要） ・市民と行政の優先順位にギャップがある

3班	<ul style="list-style-type: none"> ・市の問題に関する情報 ・イベント情報 ・活発に活動している人々の情報 ・もらえるお金の情報 ・時系列的な情報 ・楽しさを増させる情報 ・子育て支援情報 ・五感に伝わってくる情報 ・ごみ回収日の情報（ごみ回収を実施しない） ・権利・サービスが受けられる情報 ・義務（納税等）に関する情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな情報があるかわからない ・補助金情報 ・欲しい情報がみつけにくい ・困っていないが不便・不満 ・ごみ出しルールの情報 ・料金制度の変更情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のITリテラシーの不足 ・情報が紙（アナログ）に集中している ・行政のIT知識の不足 ・柔軟性がない ・受け取る人に合わせた情報媒体が必要 ・「協働」に対する意識 ・伝えよう受け取ろうとする姿勢 ・五感を鍛える、デザイン力不足 ・考える機会が少なすぎる ・ストーリーを集める ・対話する機会が少なすぎる ・一方的な情報 ・必要な情報があることに気づかない ・たくさん情報がありすぎる ・情報を集約する機関・人 ・市民、行政がお互いに期待しすぎ
4班	<ul style="list-style-type: none"> ・行政活動の内容（目的・活動・予算・課題）の情報 ・行政職員が困っていることの情報 ・消費税に関する情報 ・国民保険の自己負担に関する情報 ・募集情報 ・イベント情報 ・事業内容の具体的な情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政内部で職員同士が情報共有していない ・情報はあるが検索できない（市のウェブサイト） ・公共施設の利用に関する情報が一本化されていない ・市役所の窓口に関する情報 ・税金や制度に関する情報 ・行政内部の異動情報 ・施設に関する情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を扱う目的・意図が不明瞭 ・市民の声を「クレーム」と受け止める思考（声は「改善・工夫の宝」） ・使命感の欠如（時代の流れについて行けず制度疲労） ・遠因は貧乏 ・暴力団の情報が少ない ・市、議会もがんばっている ・提供する側の自己満足もしくは全てを提供するには負担が大きい ・求められる情報を把握できていない ・当事者意識が希薄 ・サービスに自己満足
5班	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント・政策情報 ・知らないことで不利益を被る情報 ・人口増減の情報 ・市の歳入・歳出予算の中身の情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・献血募集の情報が周知されていない ・新幹線の開通で在来線が減少することについての情報 ・情報がないので知らないことがわからない ・軽自動車税アップの情報 ・情報があっても受け手に見てもらえないこと ・新大牟田駅市営駐車場の料金アップの情報 ・町内公民館への加入方法に関する情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有ができていない ・情報発信手段が不十分 ・市の情報がネット上で全て公開されていない ・情報公開窓口が設置されていない ・情報発信が一方通行 ・情報がわかりにくい ・口コミ情報の認識不足 ・今この場に一番情報が少ない ・広報による市の情報は市民の末端まで届いていない

市民参加について考える！

市民と行政が対等な立場でパートナーとして協働を進めて行くためには市民の皆さんの市政への参加がとても重要になります。ワークショップでは市民参加を進めるための解決策を探るために、なぜ市民参加が進まないのかということについて考えました。

市民参加について出された意見

	市民参加の経験	市民参加して困ったこと・疑問に思ったこと	なぜ市民参加が進まないか
1班	<ul style="list-style-type: none"> 市民検討会 社会教育委員の会議 マスタープラン策定審議会 	<ul style="list-style-type: none"> 実施されていることがわからない 意見を聞くだけになってくる 参加してもなかなか意見が反映されない アンケートが実施されていること知らない 	<ul style="list-style-type: none"> 参加人数を決めない 知らないから 市民参加制度があることを知らない 情報発信方法 参加してもらいたい人が参加（人数にこだわらない） 参加することによってまちが変わることを知らせる アンケート結果を実際に活かす 市民参加の結果を市民に知らせる 知らない、気づかないから 興味がない内容だから 忙しいから
2班	<ul style="list-style-type: none"> アンケート 地域福祉計画策定ワークショップ 男女共同参画審議会 学校通学区域審議会 三川坑跡及び周辺施設を考えるみんなの会議 環境アンケート 都市計画策定ワークショップ 	<ul style="list-style-type: none"> 参加している同じ人ばかり発言する 自分出した意見が反映されるか疑問 声をあげない人の意見が聞けない、反映されない 参加応募者少ない、同じ人が参加している ワークショップ、審議会等の結果が市政にどう反映されか知りたい 参加後の意見集約回答がない 審議会の運営が行政主導 意見反映の実感が乏しい 	<ul style="list-style-type: none"> 情報が入らない 時間が取れない、面倒 参加するメリットがない 興味・関心が持てない 市政への関心が低い 審議会への参加者が偏っているから 専門外とを感じるから 忙しい（業務中の審議会） 初めて参加する人には雰囲気からなれない 義務ではないから 必要な知識が不足しているようで恥をかきたくない 自分より知識のある人が参加してくれればいい

課題の分析から解決策を探る！

市民と行政との協働を進めるためには、情報共有や市民参加の障害となる問題（現象）を解決していく必要があります。課題を把握しその原因を具体的に分析することで課題の解決方法を探り、情報共有、市民参加、協働の制度の仕組みとルールを明確にしていきます。

